

市原

# 認知症でも安心なまちへ

## 対策連協設立、専門家が講演

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりへ、

んだ房総丘陵は意外な難所。今回は登頂すらできず、「低い山だから大丈夫」と高をくぐると、逆に道に迷って危ない」と肌で感じた。

06年12月に遭難死亡事故が起きたのを契機に、同僚や地区、観光協会と協力し年4回ほどの登山道整備を始め、10人前後で山に入り、倒木の撤去や手作りの案内看板設置。個人的にも月に1度下トレニングを兼ねて山の字を見に行くのを欠かさな

遭難のあった3日も、偶然登山道整備の日だった。約5時間の作業を終え下山した午後2時半ごろ、署から遭難発生の連絡が。「必ず行きまさらね」。携帯電話で男性を笑し、位置を確認しながら2時間40分後、無事男性の元にたどり着いた。

「自分も迷った時に感じたことのある不安をできるだけくなくしてほしい」。経者だから分かる遭難者への

地域が連携して取り組もう。係者が「市原市認知症対策と市原市内の医療、福祉関係者連絡協議会」（会長＝小



「認知症の地域連携」をテーマに記念講演する細井さん＝市原市の五井会館

沢義典・千葉労災病院リハビリテーション科部長）を立ち上げ、設立記念式典などを開いた。

認知症に関しては予防や早期発見、治療などを担う病院が中心だが、認知症になった後は介護、行政、地域ボランティアなど、いろいろな役割のネットワークが重要となる。同協議会は、認知症でも安心して暮らせるまちにするための連携構築が目標。

五井会館での設立総会では小沢会長ら医療、福祉などの関係者14人の役員を選任。式典には260人が出席した。来賓の林純一・市保健福祉部長は「認知症対策は市の取り組みでも重要な項目の一つ。この協議会は具体的な支援策も検討すると聞いており、地域で安心して暮らせるまちづくりにつながる活動を期待して

いる」とあいさつ。

続いて、袖ヶ浦さつき台病院（袖ヶ浦市）の細井尚人・認知症疾患医療センター長が「認知症と地域連携」をテーマに記念講演した。細井さんは、認知症は早期発見が重要と啓蒙されたが、実際は病院・福祉施設とも空き待ち状態で、たとえ早期発見しても治療法がない「限界」を抱えており「地域の連携、人脈づくりなどこそ最後のとりでになる」と提言した。

シンポジウムでは各分野の代表者が登壇。「物忘れ外来の予約は数カ月待ち」（医療）、「虐待、介護放棄など解決できないことが数多くあり、皆さんの力が必要と感じる」（福祉施設）、「優しさだけで介護はできない。よりよい介護のためにも連携を深めたい」（介護家族会）など現状と期待

を語った。小沢会長は「これだけ多くの参加があったことをうれしく思う。同時に地域の中で（認知症対策への）危機感も感じられた」と話した。今後は、情報交換や調査・研修などの活動に取り組む予定。



＊松江の写真撮影地図  
まち歩きの中で写真撮影をする際の参考にしてもらおうと、松江市内の日常風景を紹介する地図「Maptsue Photo Map」を作成し、観光案内所で配布している。

宍道湖など有名スポットだけでなく、ネオンがともる前の繁華街・伊勢宮町や、人けのない一畑電車のホームなどを36枚の写真で切り取った。両面カラーで広げるとA2サイズ。

＊特産枝豆の菓子  
秋田県の農業・食品産業支援を手掛ける「あきた食彩プロジェクトス」（秋田市）などは、県特産の枝豆を使った菓子「青豆のドラジェ」の

を植える園児  
を植える園児

## 園児が緑のカーテン作り

### 市庁舎南にゴーヤ苗植栽

節電対策を推進する茂原市は、庁舎南口の市民広場にゴーヤによる緑のカーテン作りを行った。保育所の園児と職員が協力し、プランターにゴーヤの苗を植

節電対策を推進する茂原市は、庁舎南口の市民広場にゴーヤによる緑のカーテン作りを行った。保育所の園児と職員が協力し、プランターにゴーヤの苗を植



を植える園児



の枝豆を「青豆」

# 焼きたてのパン

